

令和7年度指導教諭による「授業力アップ講座」①②

本年度も指導教諭の優れた授業及び解説・講話、実技講習指導等を広く公開し、授業改善、指導力向上等を図る講座を開設しました。今号では、2つの授業力アップ講座を紹介します。

9月1日（月） 一関市立一関小学校
第5学年 算数：整数の性質を調べよう

授業者 須藤 直子 先生

9月8日（月） 平泉町立平泉中学校
第3学年 国語：作品の表現の工夫に着目し、作品を批評しよう

授業者 今野 満江 先生

提案授業

「たてにすきまなくしきつめられるのはどんなとき」という学習課題のもとで、長方形の中に、合同な正方形の紙を敷き詰めることを通して、約数の意味について理解する授業でした。



子どもたちは、実際に長方形の縦に色画用紙を隙間なく敷き詰める活動を通して、約数となる数について考察し、実感的に理解することができました。また、敷き詰めた結果を表にまとめることを、子どもたちから引き出し、表に整理するよさに気付かせていました。さらに、縦に敷き詰める考えをもとに、横の敷き詰められる数について考察し、約数の意味の理解を深めました。

子どもたちの「やってみよう」を引き出しながら課題解決する授業でした。

研究協議

単元計画を教師と児童で共有することが、児童の効果的な学びにつながるということについて紹介されました。児童が学習の見通しをもった上で、教師が意図的に学びを価値づけ、紐づけていくことの意義を、参観者全員で再確認できました。

👉 須藤先生の授業から学ぶ 算数科の授業のポイント！

- ◆子どもの「やってみよう！」という気持ちを大切に授業づくりをすること。
- ◆具体物を用いた操作活動による実感を伴った理解を大切にすること。

提案授業

「繰り返し出てくる表現は、何を表しているのだろうか。」という学習課題のもとで、生徒が批評文を書くために、自己の考えをロイロノートに書き、複数の生徒と交流しながら考えを深める授業でした。



導入では教材を読んで感じた疑問点を示し、単元を貫く問いを確認することで、生徒が本時の学習活動をつかみ、主体的に学習に取り組む工夫が図られていました。

展開では、繰り返し出てくる表現の効果について生徒が考えることに時間をかけられるような準備が図られていました。

終末では、ロイロノートで振り返りを書き溜めていました。

研究協議

生徒の疑問を生かす単元計画のつくり方や、ロイロノートを活用した効果的な意見交流の方法について紹介されました。高めたい資質・能力に応じた教材研究や、創意工夫のある指導方法の検討が重要であることを再確認することができました。

👉 今野先生の授業から学ぶ 国語科の授業のポイント！

- ◆「思考力・判断力・表現力」を高めるための時間をしっかりと確保すること。
- ◆「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のために ICT を効果的に活用すること。

参加者の声（一部抜粋）

- ・学びの価値づけ、紐づけは、単元計画を共有していることでより効果的になるし、教師の意図的声掛けが大切だと改めて気付いた。
- ・個別最適な学びは、学習方法・学習内容を子供が選べる環境を整えておくことから生まれるということが、子供の活動する姿から実感できた。

参加者の声（一部抜粋）

- ・単元計画をもとに、指導事項と教材の特性を綿密に紐付ける事が子供の資質・能力向上を決めると感じた。
- ・本時の活動の重点を見極め、焦点化することで、子供の学びが深まることを再確認できた。
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実は、日頃の積み重ねが大切だと感じた。